

「ふるさとを探検しよう！」

本単元で育成する資質・能力

「探究力」「思考力・判断力・表現力」「メタ認知力」
「協働・合意形成意欲」「地域貢献力」「本質を志向する価値観」

※なお、本校では、上記の資質・能力を児童及び教諭間で共有するために、次の名称を用いている。

「自分事の問い追究力」（探究力）、「かんがえ力」（思考力・判断力・表現力）、「ふりかえり力」（メタ認知力）

「みんなと解決したい気持ち」（協働・合意形成意欲）、「引き受ける心」（地域貢献力）、するどい目（本質を志向する価値観）

1 単元計画

(70時間扱い)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	地域の探検をしよう (20 時間)								神石高原町の特産物を 宣伝しよう (20 時間)			
	こんにゃくを育て、調べよう (30 時間)											

2 児童観

(1) 児童の学習経験や日常の児童の様子から

本学級の児童は、これまで地域のこんにゃく作り農家の方から、こんにゃく作りにおける喜びや苦勞を聞き、抱えておられる悩みや願いについて考える活動を通して、地域の課題を「引き受ける」ことや、引き受けた課題を「みんなと解決しよう」と協働して取り組むという経験をしてきている。しかし、「こんにゃくをもっとたくさんの人に食べてもらいたい。」などの願いに対して、自分たちなりに、こうやったら少しでもよくなるのではとの提案を考えたり、提案に向けて自分たちで物事をすすめたりする経験が少ない。

また日常の児童の様子から、2つ以上の物を比較して話し合ったり、特徴をとらえていくつかのものを分類したりすることができ始めていると考える。しかしながら、追究をする上で、情報を関連付けながら考えを深めていくという経験は、まだ本学級の児童には不足していると考えられる。

(2) アンケートから

児童の資質・能力及び態度の実態を明らかにするために以下のアンケートを行った。(児童18名)

	資質 能力	下位項目	アンケート項目	アンケート結果 (人数)			
				とても	やや	あまり	全然
学習 方法	スキル	自分事の問い追究力	・じゅぎょうをうけると、「なぜだろう」「やってみよう」とおもっています。				
		かんがえ力	・じゅぎょうでは、しらべたことやともだちのいけんをくらべたり、なかまわけしたり、かんけいをみつけてりして、なにがわかるかかんがえています。				
自分 自身	スキル	ふりかえり力	・がくしゅうのふりかえりをするときは、「どこまでわかったか」や「がくしゅうのほうほうでうまくいったことやしっぱいしたこと」などのりゅうをかんがえています。				
	価値観 倫理観	するどい目	・じゅぎょうでは、「たぶんこうではないかな。」「こうすればできるのではないかな。」とかんがえています。				

他 者 や 社 会	意欲 態 度	みんなと解 決したい気 持 ち	・みんなとはなしあうとき、はんたいのいけんのひとと じぶんのいけんをあわせて、みんながなっとくのいく かんがえをつくろうとしています。				
	価値観 倫理観	引き受ける 心	・ともだちやちいきのひとがなやんでいたら、たすけて あげたりおうえんしたりしたいとおもいます。				

省略します。

3 単元観

(1) 本学習材のねらいについて

本学習材における「生き方」について

【本質的な問い】神石高原町の特産物を宣伝するにはどうしたらよいか。

本学習材は、神石高原町の特産物（こんにやくを中心に）を広めたいという願いに対して、どう行動すればよいか、自分なりの「応え」を見付け、追究しようとする。

学習材の魅力（学習材自体の価値や子どもにとっての魅力，ゲストティーチャーの生き方）

児童の身近には、神石高原町で作られた特産物を食べたり、育てている方から話を聞いたりすることができる環境がある。特に「こんにやく」は、神石高原町の特産物として栽培されてきた歴史があり、地域に根付いた食品である。かつては、神石高原町で盛んに生産されていたこんにやくだが、現在は生産者や消費量ともに減少している。児童は、2年生の時に生活科の学習で町探検をしており、地域の特産物や名所について知っており、地域で活動したいという態度が育っている。

この地域や児童の実態をふまえ、まず児童は、1・2学期に地域を探検し、こんにやくなどの神石高原町の特産物について調べる。そして、こんにやく作り農家の方と一緒に、実際に学級園でこんにやく芋を育て、加工して食べる経験をする。活動の中で、こんにやく農家の方の悩みや願いを聞くことで、「どうすればこんにやくなどの神石高原町の特産物をもっとたくさんの人に食べてもらえるだろう。」という問いを持てるようにする。そうすることで児童は、こんにやくを中心に神石高原町の特産物について調べ、たくさんの人に広めていくための具体的な宣伝方法や販売方法を考えていくであろう。この問いの追究により、地域にかかわる学びが実現できると判断した。

本単元では、こんにやくなどの神石高原町の特産物を広めるために、地域の道の駅で宣伝活動を行う。自分にできることは何か、自分なりの「応え」を見付けて追究する「するどい目」を養うことのできる学習材である。

4 指導観

指導にあたっては、以下の工夫を行う。

(1) 自分事の問いの追究(主体的な学びの視点)

児童の学びを自分事にさせるために、地域の農家の方の協力を得ながら、実際にこんにゃく芋を栽培し、こんにゃく芋の成長の仕方や育て方を具体的に知る。また、自分たちの畑で作ったこんにゃく芋を、加工して食べる。さらに、社会見学でこんにゃく製品を販売している新内農園を見学する。その後、本や資料、インターネットを使ってこんにゃくを調べ、学習内容を深める。

地域の特産物であるこんにゃくについて詳しく知り、愛着を持つことで、こんにゃくの宣伝活動を、自分事の課題として追究していけるようにする。その際、こんにゃくなどの地域の特産物をたくさんの人に気に入ってもらうためには、どんなレシピがよいかを考え、資料調べにつなげていく。

(2) 学び合い(対話的な学びの視点)

学び合いにおいては、自分事の課題を追究する中で、課題に対する思いをペアやグループ、学級全体で紹介する場面を持っていく。また、課題追究の進捗を随時交流する中で、友達や他のグループがどのような取組や工夫をしているのかを知り、自分の課題追究の方法を見直す機会を保障していく。

その際、主体的に考えを伝え合い、みんなが納得のいく考えを作るために、自分の考えを十分に書く時間を与え、その考えをペアトークや班トークで表現する機会を与えていく。

また、いくつかの異なる考えを比べて選択できるよう、特産物の宣伝方法について各自に考えさせた後、その中からどの宣伝方法が良いか、選択させる場面を設定する。そうすることで、自分なりの考えをもたせたり、友達の発言に関連付けた発言をさせたりして、対話的な学びができるようにする。

さらには、ゲストティーチャー（以下G T）を計画的に招へいしていくことを通して、自分の課題追究のヒントを得られるよう計画し、自分の取り組み方を修正したり、他のグループへのアドバイスも伝えたりしていくようにする。

(3) 深く(深い学びの視点)

深く生き方について考えさせるために、こんにゃく作り農家の人たちの苦労や願いについて聞く機会を設ける。そうすることで、色々な課題を持ちながらも、こんにゃく作り農家の人たちが決してその解決をあきらめず、他の地域の取組にも学びながらこんにゃく作りを続けておられることに気付かせる。

また、こんにゃく等の神石高原町の特産物を宣伝していくために、たゆまぬ研究や工夫、努力を積み重ねておられる「道の駅さんわ182ステーション」やレストラン「高原の風」の人たちと連携する。

連携を深める中で、こんにゃくを使ったお弁当やお菓子などのレシピを考えたり、試食会を開いたり、自分たちにできる宣伝方法は何かを考え、こんにゃく作りでお世話になった方の役に立ちたいという思いが抱けるようにしていく。

5 本単元で設定した目標

	観点	目標
学習方法	自分事への問いの追究力	こんにやく作りをしたり、農家の方から話を聞いたりすることを通して、自分なりのこんにやく作りに対する思いや願いをもち、必要な情報を収集・分析し、課題解決を目指して探究することができる。
	かんがえ力	問題状況に合わせて、比較したり分類したり関連付けたりした考え方を選択できる。
自分自身	ふりかえり力	自分の学び方の成長や学んだ事の自分にとっての意味、学んだことどうしの関わりについて振り返ることができる。
	するどい目	「神石高原町の特産物を宣伝するにはどうしたらよいか」という問いや自分の問いに対して、自分なりの「応え」を見付けようとする。
他者や社会	みんなと解決したい気持ち	安易に友達の意見に流されず、相手の発言の関わるところを見付けて、自分や相手の考えを深めあおうとする。
	引き受ける心	過去の地域の人たちが現代に、そして現代の人たちの思いが未来の自分たちのよりよい生活を願っていることに気付くと共に、抱えられている課題に気付き自分事としての課題として共に解決しようとする。

6 本単元で設定した評価規準

	観点	評価規準
学習方法	自分事への問いの追究力	こんにやく作りをしたり、農家の方から話を聞いたりすることを通して、自分なりのこんにやく作りに対する思いや願いをもち、必要な情報を収集・分析し、課題解決を目指して探究することができている。
	かんがえ力	問題状況に合わせて、比較したり分類したり関連付けたりした考え方を選択できている。
自分自身	ふりかえり力	自分の学び方の成長や学んだ事の自分にとっての意味、学んだことどうしの関わりについて振り返ることができている。
	するどい目	「神石高原町の特産物を宣伝するにはどうしたらよいか」という問いや自分の問いに対して、自分なりの「応え」を見付けようとしている。
他者や社会	みんなと解決したい気持ち	安易に友達の意見に流されず、相手の発言の関わるところを見付けて、自分や相手の考えを深めあおうとしている。
	引き受ける心	過去の地域の人たちが現代に、そして現代の人たちの思いが未来の自分たちのよりよい生活を願っていることに気付くと共に、抱えられている課題に気付き、それを自分事として解決しようとしている。

7 指導と評価の計画 (全 20 時間)

過程	時	○学習活動・◆内容	評価規準 (評価方法)
自分事の問いの追究	1 2	<p>○自分たちの畑で作ったこんにゃく芋を、農家の方の協力を得ながら、加工して食べる</p> <p>○地域のこんにゃく作り農家の方から、こんにゃく作りにおける喜びや苦勞を聞き、抱えておられる悩みや願いについて考える。</p> <p>◆GTの抱えておられる課題意識を見つける。</p> <p>◆こんにゃくをもっと広め、食べてもらいたいという願いを知る。</p> <p>こんにゃく作りをしている農家の人の話を聞くと、こんにゃくをもっとみんなに食べてもらいたいという願いを持たれているようです。私たちもできることを考えていきたいです。</p>	<p>引き受ける心 神石高原町のこんにゃく作りの現在の状況、農家の方の思い等を想像することができている。(発言・ノート)</p> <p>自分事の問い追究力 自分が調べてみたいことをもとに、課題を設定することができている。(発言・ノート)</p>
情報収集	3 5	<p>○自分の課題解決のための調べる内容や方法を考え、友達と協働して追究活動を行う。</p> <p>◆どうすればこんにゃく作り農家の抱える課題を解決できるか、手掛かりになる情報を集める。</p> <p>◆こんにゃくを中心に、神石高原町の特産物を試食するなどして調べ、どんな商品を宣伝していけばよいのか、具体的に考える。</p> <p>神石高原町の特産物には、さしみこんにゃく・トマトケチャップなど、美味しいものがたくさんあることが分かりました。どうすればもっと特産物を宣伝できるのか、考えていきたいです。</p>	<p>みんなと解決したい気持ち それぞれの課題解決に向けて、友達と協働しながら、意欲的・計画的に追究活動を行うことができている。(発言・ノート)</p>
整理分析	6 8	<p>○追究活動で集めた神石高原町の特産物の宣伝方法を整理・分析し、自分たちにできることを考えてまとめる。</p> <p>◆こんにゃくを中心に、神石高原町の特産物の宣伝方法を考える。</p> <p>◆こんにゃくを使ったお弁当やレシピを考える。</p> <p>◆集めた情報を整理・分析し、自分たちの追究や考えの検討や考えの見直しをする。</p> <p>◆中間交流会をもとに、再度、追究活動を行い、自分の考えをまとめる。</p> <p>神石高原町の特産物を宣伝するために、道の駅で試食会を開いたらどうか。特産物を実際に食べて、美味しさを実感してもらうことが大切だと思うよ。どんな試食会にしたらいいだろう。</p>	<p>かんがえ力 集めた情報を整理・分析し、友達のアドバイスをもとに考えを見直しながら表現することができている。(発言・ノート)</p>
まとめ創造表現	9 12	<p>○神石高原町の特産物を宣伝するためにはどうすればよいか、アイデアを出し合う。</p> <p>◆友達と協働して伝える工夫を話し合い、自分たちの考えをまとめ、表現する。</p> <p>◆道の駅での試食会の開催、こんにゃく弁当の販売、キャラクター作り、ポイントカード作りなど、宣伝方法について具体的にアイデアを練る。(本時)</p> <p>道の駅での試食会で、どんなことをすればいいのか、わかってきました。みんなのアドバイスをもとに、アイデアをもう一度練り直します。</p>	<p>かんがえ力 道の駅での試食会に向けた提案を聞き、自分達のものと比較したり、関連付けたりしながら考えることができている。(発言・ノート)</p>
実行	13 18	<p>○道の駅で試食会を開き、神石高原町の特産物を宣伝する。</p> <p>◆提案会でみんなからもらったアドバイスをもとに、提案内容を見直し、よりよい宣伝方法にまとめる。</p> <p>◆試食会で誰がどんなことをするのか、役割分担をする。</p> <p>◆道の駅のレストラン「高原の風」に、自分たちの考案したこんにゃく弁当を提案する。できあがった弁当を道の駅で販売する。</p> <p>◆神石高原町の特産物を宣伝するキャラクターを考案し、デザインを練る。お面やポスターを作って、試食会で活用する。</p>	<p>するどい目 これからの神石高原町の特産物の宣伝方法について、具体的な実践を考えることができている。(発言・提案したもの)</p>

	<p>◆ポイントカードの活用方法を具体的に考える。</p> <p>試食会では、自分たちの考案したこんにゃく弁当が売れてよかったです。さしみこんにゃくなどの試食品も、たくさんの人に食べてもらえてうれしかったです。これからも工夫していきたいです。</p>	
ふりかえり	<p>○自分たちのこれまでの取組をふり返る。</p> <p>◆神石高原町の特産物を宣伝する方法について、自分たちの取組を振り返る。</p> <p>神石高原町の特産物を宣伝するために、「ポイントカードを作る」など、自分なりのアイデアを考えることができました。小学生のぼくたちでも、工夫すれば地域の役に立つことができるとわかりました。</p>	<p>ふりかえり力</p> <p>自分の学び方の成長や自分にできそうなことについて考えることができている。(発言・ノート)</p>

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・道の駅で行う特産物の試食会を成功させるためには、どのような宣伝をすればよいか、アイデアを出し合って練り上げることができる。

(2) 準備物

- ・実物投影機，電子黒板，これまでに学習したことをまとめた模造紙（教師）
- ・宣伝の詳細を書いた画用紙（児童）

(3) 学習の展開

配時	主な発問と児童の反応予想	指導上の留意点 ☆児童への支援	評価規準 (評価方法)
2分	<p>T: 今日の授業ではどのようなことを考えていきますか。</p> <p>C: 今日は、道の駅で行う特産物の試食会について、みんなで考えます。</p> <p>C: それぞれのグループが考えている宣伝方法を紹介し合って、友達や先生からアドバイスをもらいます。</p> <p>C: 良い所と直す所を見つけ、各グループのアイデアをもっといいものにします。</p>	<p>・児童からこれまでの学習の概要やこの時間のねらいについて話させる。</p> <p>☆これまでの学習の流れが分かるパネルを用意しておき、今日の学習がどのような目的をもっているのか、分かるようにする。</p>	
3分	<p>T: 今日の学習課題を確認しましょう。</p> <p>道の駅の試食会で、どのような宣伝をすればよいだろう。</p>		
20分	<p>T: これから、自分たちの考えた宣伝方法を紹介してもらいます。</p> <p>C: ぼくたちは、「こんにゃくいっぱいヘルシー弁当」と「こんにゃく寿司」の販</p>	<p>・各グループが、道の駅の試食会に向けて作っている宣伝の概要を、画用紙や電子黒板を使って紹介する。</p>	

<p>10分</p>	<p>売を考えました。この2つは、みんな食べたことがなくて珍しいので、こんにやくを宣伝できると思います。どちらも、去年の6年生のように、レストラン「高原の風」に作ってもらいます。</p> <p>C：私たちは、特産物を宣伝する新しいキャラクターとして、「だいこく様」と「しいたけ君」を考えました。また、「こんにやく仙人」などのお面を作っかぶれば、試食会でアピールできると思っています。</p> <p>C：私たちは、ポイントカードを考えました。100円で1ポイント、5ポイントで1回くじが引けます。道の駅で買い物をしたお客さんのレシートをチェックして、ハンコを押します。景品は、さしみこんにやくやトマトケチャップです。</p> <p>T：それでは、提案したグループに対して、感想や質問を言いましょう。</p> <p>C：こんにやく寿司は、近くのお店のメニューにあったので、あまり珍しくないと思います。</p> <p>C：確かに。私も食べたことがあります。</p> <p>C：「しいたけ君」のしいたけは、今回の試食品の中に入れていません。新しいキャラクターは「だいこく様」の方がいいと思います。</p> <p>C：賛成です。だいこく様は、ただものをくれるので、試食会のイメージにもぴったりです。</p> <p>C：ポイントカードのグループに質問です。5000円とか、たくさん買い物をしたお客さんがいたらどうしますか。</p> <p>C：ポイントカードは1枚1500円までで、くじは最高3回までの予定です。</p> <p>C：「5000円も買ったのだから、もっとくじをさせろ」という人がいたら、どうし</p>	<p>☆各グループの準備段階から、一人一人の理解や状況を把握し、支援しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表したグループの良い所や直す所を、他のグループに発表してもらおう。 ・教師は、「質問・意見交流タイム」をふまえ、良い所や直す所を、整理して伝える。 	
------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

	<p>ますか。</p> <p>C : 1500 円ごとに、何枚もポイントカードを渡したらどうかな？</p> <p>C : それだと、ポイントカードがすぐになくなってしまふよ。多くてもポイントカードは2枚までにしようよ。</p> <p>C : それぐらいがいいと思う。3枚も4枚もあげているときりがないしね。</p>		
7分	<p>T : 他のグループからのアドバイスを取り入れて、これからどのように工夫すればよいか、ふり返りに書きましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達のアドバイスで取り入れたいことなど、これから工夫することをノートにまとめる。 ・ 次時への見通しが持てるようにする。 	<p>かんがえ力</p> <p>道の駅での試食会に向けた宣伝の提案を聞き、自分達のものと比較したり、関連付けたりしながら考えることができる。（発言・ノート）</p>
3分	<p>T : ふり返りを発表ましよう。</p> <p>C : こんにやくカツは珍しいので、ぜひ「高原の風」に作ってもらいたいです。カツなので、キャベツやレモンをつけたらいいなと思ひました。こんにやく寿司は、今度お店に行つて食べてみようと思ひます。</p> <p>C : 道の駅に來た人が、試食会をしていると分かるように、試食会の看板や案内図が必要だと思ひました。これから何を準備すればいいか、分かつてきました。</p>		

(4) 板書計画

<p>◆ 特産物の写真（さしみこんにやく・トマトケチャップなど）</p>	<p>道の駅の試食会で、どのような宣伝をすればよいだらう。</p>	<p>3月5日（日） 道の駅の試食会</p>	<p>◆ これまでに学習したことをまとめたパネル</p>
	<p>宣伝の概要を表すもの ※各グループの提案を書いた画用紙</p>	<p>◆ 良い所： ◆ 直す所：</p>	
<p>☆ふり返り</p>			